

畑地における休閒地の実態とその有効利用

尾 崎 正 美

(宮崎県総合農業試験場)

1. 畑休閒地の実態とその要因

調査対象地区内(西都市三財小豆野)に畑地を有する27戸の畑地の休閒は、春夏期で畑総面積の10%内外、秋冬期では30%以上であった。これを営農類型別にみると、タバコとハウスやさい作農家に休閒地が多く、粗飼料栽培面積の多い和牛生産農家は少ない。前者2種類の春夏期の休閒は、主としてタバコ、ハウスやさい(主として、キュウリ、スイカ)の労働ピーク時の労働力の制約によるものであり、秋冬期の休閒は、労働力不足と春夏作物の前進による植付準備のためである。このほか秋冬作として有利な商品作物が少ないことも理由の一つとしてあげられている。主要夏作物の前後についてみると、タバコ、トンネルスイカの前の休閒地が約78%、落花生の後が約75%で最も多い。前者の場合は、これら作物の作期の前進、後者の場合は、次の夏作物として前者のような作物が結合してくるためである。

2. 畑休閒地の有効利用

当地区の主要夏作物であるタバコ、トンネルスイカの前後に休閒地が多いことから、その休閒地の有効利用について実証的検討を行った。

1) タバコの前後の休閒地：畑地でのタバコ作は連作障害回避のため、一般的には2～3年の輪作であり、タバコの跡地には主として大根、ソバが作付されるのでとくに問題はない。問題となるのはタバコの前の利用である。タバコの定植は3月中～下旬であるが、植付準備(堆肥施用、土壌消毒など)が1～2月となるので、その利用期間は前作の春夏作物収穫後の9～12月までとなる。この期間に作付～収穫できる秋やさいは多いが、多くの肥料を必要とするやさい類は、その残効によりタバコの品質が悪いという理由から作付されないのが一般的である。したがって、上記期間を利用して、しかもタバコに影響しない作物となるとソバしか見当たらないというのが現状である。そこで、上記休閒期間の短縮と和牛

の粗飼料確保、和牛のいない農家では有機質源の確保、さらには輪作的畑地利用をねらいとして、禾本科の夏作物であるソルゴーの作付を行った。その結果は大変好評を得ており、今後畑地の休閒地利用の一つとして普及するものと思われる。

2) トンネルスイカの前後の休閒地：ハウスやさい作農作では、ハウス果菜類のほか普通畑にはトンネルスイカの作付が多い。この跡地はタバコ跡地と同様、畑地利用上はソバや秋やさいの作付は可能であるが、ハウスやさい作との労働競争により休閒となるのが一般的である。また、秋冬飼料であるイタリアンライグラスも作付可能であるが、和牛のいない農家ではその必要性もなく、さらに普通種のイタリアンでは5月頃までの畑地利用となるので、次の春夏作物の作付ができない。そこで和牛のいないハウスやさい農家のトンネルスイカ跡地に早生系イタリアン(ミナミワセ)の作付を行い、地上部は近くの肥育牛農家に提供し、その代償として厩肥を貰い受ける方式を採用した。この早生系イタリアンの跡地には再びスイカを作付したが、イタリアン跡地の整地にもトラクタ利用であれば支障のないことが実証できた。また、イタリアン跡地のスイカは農家が今までに経験したことのない良好な生育と収量をあげることができた。

3. 要 約

畑地における休閒は経営類型によって異なり、その理由も個別経営における主幹作物を中心とした畑地利用上、労働力利用上、やむを得ない場合が多い。したがって、その休閒地は、①個別経営の枠内だけでなく、地区全体としての合理的土地利用と、②有機物生産量の多い禾本科作物をとり入れ、大家畜との結合を図るとともに、③畑地の輪作的利用と有機質源の確保による土地生産力の向上、という視点からの有効利用を図ることが基本となる。